

## ◆室田義文翁の談話

水神社発行『水社みと』第2号 昭和11年10月・春秋第15号より

恩光碑保存会・初代副会長・関東氏との直話

関・曰く

室田先生は一個人にて近き将来において佐幕派慰霊碑を建立するの御意図ありと聞く何卒其御趣旨を拝承致度し云々。

翁曰く

格別の理由はなきも、弘道館時代の友人が諸生派に属し大部分仆れて居るを以て頗る同情に堪えざるの余り其挙に出でんと企画しあるは事実である。兎に角、昭和聖代の今日、天狗諸生でもあるまいじゃないか。

一方に勤皇派忠魂塔が建立せられたのであるから、此の際左幕派の為、建碑をなすことにすれば会では彼我主義の相違より出発点を異にし互いに反目殺戮を敢えてしたる殉難志士の英霊も笑って地下に握手し既往を語り合い喜んで呉れるだろう。

要するに、両派共に、各其の君に対して尽くしたる誠忠に至っては、豪も異なる所はないのである云々。

常磐神社 境内室田義文翁記念樹・桜本年も満開に咲いています。

